

終わりになき創意工夫で
最先端の時代を動かす

小型電動機(モーター)製造販売・電気機械器具販売のメーカーとして1973年に設立。材料のプレス打ち抜きから巻線・組立・検査までモーター製造に関わる全ての工程について一貫生産を行っており、短納期、低コストで顧客ニーズに対応できる企業として信頼と実績を積み重ねている。

一貫生産できる企業の「強み」

秋田電装株式会社は、滋賀県に本社を置く草津電機株式会社のグループ企業のひとつであり、1973年、羽後町の誘致企業として設立され、翌年4月より創業を開始した。草津電機グループでは、秋田を含む全国9カ所と、上海・タイ・シンガポール・フィリピンの海外4カ所に事業所を構えており、同社では、主に住宅設備に組み込まれるモーターの製造販売等を手がけている。創業当初はエアコンのモーターが主力商品であったが、現在は、家庭用のレンジフードファンや住宅換気システムなどに使用される小型のモーターから、スーパーなどの冷蔵ショーケースに使われる樹脂モーターまで、多種多様な製品を製造し、時代の流れに則したものづくりに応じている。創業以来変わらないのが、社内での「一貫生産」であり、受注の相談から納品まで一手に引き受けられる体制は、同社にさまざまな強みをもたらしている。



“どんな要望でも、こと細やかに”

「当社では、工場内で使う機器のほとんどを自社で開発しています。そうすることで、生産ラインに不具合が生じた場合にも自社で速やかに対応でき、小ロット、短納期、低コストといった様々なニーズにも細やかに応えられるよう、心がけています。現在当社で製造しているモーターの種類は1カ月で350種ほどにもなります。素材さえ揃っていれば、1週間ほどで納品できる製品もありますよ」と話す佐藤和彦代表取締役社長は、同社の創業時のメンバーであり、長年生産現場に従事した経験は、現在の経営者としての礎となっている。「人手が足りない時は、私も現場に立つ日が今でもあるんですよ」と笑う佐藤社長は、クライアントと従業員双方の声をうまく取り入れながら、日々の経営改善に励んでいる。

時代の変化を見逃さないように

現代のテクノロジーは、とてつもないスピードで日々進化を続けているが、目まぐるしく変わる情報技術の潮流をいち早くキャッチし、柔軟に対応するのは、昔も今も変わらない同社の重要なミッションのひとつだ。

工場内では、プレス、モーター回転軸の切削加工、コイルの巻線加工など、細分化された工程がリズムカルに同時進行しており、中でも目を引くのが、従業員とともに作業を行っている産業ロボットだ。同社では25年も前から産業用ロボットを導入して、作業の省力化・効率化に取り組んできた。最新型の人型ロボットは、周りの人間の邪魔にならないよう、立ち位置まで認識できるプログラミングが施されており、モーターの組立工程という重要な作業を担っている。

「昔はすべて手作業で行われていた業務を、段階的に機械化していきました。しかし、どんなに機械やロボットが優れていても、人の手や目には敵わない部分があります」と佐藤社長は語る。



工場内には、従業員が自ら投稿した「小さな?、大きなチャンス」「やぶろう常識、変えよう視点」「見る目、気づく目、進歩の目」など活気溢れる標語が掲示されているほか、生産管理能力を高める手段として、改善活動やスキル管理に関する数々のデータが貼り出されており、社内の「見える化」にも積極的に取り組んでいる。

品質保持と改善活動を推進する「TQC活動」では、職場を12のグループに分け、各部署が年度ごとに設定した目標と年間計画に対する改善や対応策をわかりやすく可視化し、従業員全員が共有できるようになっており、この取り組みは、創業から47年間続けられている。

また、「OJTスキルマップ」という従業員一人ひとりの技術力を把握するための表では、各工程において、「指導できる」「一人でできる」「指導を受けてできる」など、技術レベルが細分化されており、適材適所の人員配置に役立っている。人材教育は、それぞれの部署に任されてはいるが、社内で一貫性のある育成を行うことで、個人のスキルアップのみならず組織力のアップにもつなげている。



人と地域に貢献したい

同社の企業スローガンは、「未来の子供たちのために企業として何をすべきか」。佐藤社長は会社を経営する上でいつも大切にしていることに「お客様の要望に応えること」「社員の生活を守ること」「地域に貢献すること」の3つを挙げる。

「少子化の影響で、これからの人材確保は一段と厳しくなるかもしれませんが、働きやすい環境を整え、センス、ひらめき、向上心のある地域の若い人たちを率先して雇用していきたいですね」と語る佐藤社長の地域に対する想いが人一倍強いのは、自らが、地元採用で頑張ってきたからこそであるといえる。

こうした事業活動を通じた同社の長年に渡る地域貢献は、地域経済の牽引役となり県内産業の活性化に大きく貢献する中小企業として県から認められ、昨年7月には、「秋田県ものづくり中核企業」として認定された。

秋田県羽後町という小さな町でつくられたモーターは、家庭や経済を支える大きな原動力として、国内外の至るところで今日も回り続けている。そして、私たちがまだ想像できない未来も大きく動かしていくのだろう。

- 1 機械で巻いたコイルは、人の手によって一個ずつ品質チェックされる。
- 2 最新型のロボットが、従業員と並んで部品を組み立てる。
- 3 社員108名のうち女性は50名。地域の女性の活躍の場でもある。
- 4 家庭用の小型のものから業務用の大型のものまで多種多様なモーターを製造。



秋田電装株式会社

〒012-1121
秋田県雄勝郡羽後町大久保柏原34番地
TEL. 0183-62-2129
FAX. 0183-62-4101
<http://www.akitadenso.co.jp/>

設立/1973年
●資本金/6,000万円
●従業員数/108名
●営業品目/小型電動機製造販売・電気機械器具販売

代表取締役社長
佐藤 和彦
さとう かずひこ